

世界が金融危機に直面している中、マレーシアのイスラム金融の底堅さが目立っている。確かに、昨年マレーシア国内におけるスクーク(イスラム債)の新規発行高は、2007年に比べ4分の1以下に減少した。しかしながら今年に入って以降、すでに回復基調に向かっているとみられている。

マレーシアのイスラム金融関係者に言わせれば、イスラム金融の強みは「実体経済に強く結びついた仕組み」にあるという。イスラムの聖典コーランには、第2章275節に「神は商売を許し、利子をとるのを禁じたもうた」との記述がある。ここからイスラム金融は、

中東と並ぶイスラム金融ハブの地位築く オイルマネー、マレーシアからアジア、日本へ

カネがカネを産むような銀行利子を否定し、代わりにムダーバやムラーバといった近代以前のアラブ世界で実践された、実物取引を介在させる契約形態を中心にすえた。そのため、今回の金融危機の引き金を引いたサブプライム・ローンのような負債を証券化した金融商品は、単に権利を売買するだけで実物を伴っていないとして、イスラム金融では取引が禁じられている。だから、「イスラム金融は金融危機からの直接的な影響が小さくてすんだ」というわけだ。

本格的な最初のイスラム銀行は、1975年のドバイで設立された。これは、1973年の石油危機によるオイル・マネーを背景としており、この時期はドバイをはじめ湾岸産油各国でイスラム金融機関が設立された。こうした動きは、1980年代に入るとアラビア半島から東の方向に伝わり、イランでは1982年から、パキスタンでは1983年からイスラム銀行制度がスタートした。

イスラム金融設立の機運は、東南アジア島しょ部のマレーシアにも到達した。マハティール政権は、イスラム化政策の一環として1983年にイスラム銀行業法を施行、最初のイスラム銀行であるバンク・イスラムが設立された。その後四半世紀にわたって政府・中央銀行主導の下イスラム金融の発展に努めてきたマレーシアは、いまや中東のバーレーンと並び、東南アジアにおけるイスラム金融のハブとしての地位を築いたといえよう。

知識探訪

多民族社会の横顔を読む



【第7回】福島康博
(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
産学官連携研究員)

イスラム金融 現代版「海のシルクロード」?

そして、マレーシアで培われてきたノウハウは、同じ東南アジアのシンガポール、インドネシア、ブルネイ、さらには非イスラム国の香港まで波及しつつある。東アジアの金融の拠点のひとつである香港で、2008年に初めてのイスラム銀行設立を手がけたのは、マレーシアのホンリオン銀行であった。

こうしてイスラム金融の普及の歴史を振り返ってみると、それはあたかも、かつてアラビア半島が

インド洋やマラッカ海峡を通じて中国南部と繋がった「海のシルクロード」のルートをたどっているかのようだ。そうした意味では、イスラム金融は現代版「海のシルクロード」によって各国にもたらされているといえよう。もちろん、イスラム金融はダウ船で運ばれたわけではないが、かつての交易海路は、現代社会においてもなお一定の意味を持ちえているのかもしれない。

ここ数年、日本でもイスラム金融に関心もたれている。オイル・マネーという巨大資金を獲得するためには、そのチャンネルであるイスラム金融と、基盤となっているイスラムへの理解が必須である。はたして、現代版「海のシルクロード」は、日本にイスラムの教えとイスラム金融、そしてオイル・マネーをもたらすのであろうか。

【執筆者プロフィール】1973年、東京生まれ。マレーシア国際イスラム大学大学院留学を経て、桜美林大学大学院国際学研究所後期博士課程単位取得満期退学。学術博士。桜美林大学国際学研究所非常勤研究員を経て、本年6月より現職。専門はイスラム金融論、マレーシア地域研究。主な論文に「中東資本のイスラム金融機関によるマレーシアへの進出の現状と課題」「マレーシアにおけるイスラム投資信託とシャリーア適格株式の現状と課題」など。国際金融、イスラム思想、マレーシア社会経済など幅広い領域のカバーを目指している。